

平成 26 年度校内研究主題「子どもたちが『わかる できる 楽しむ』授業づくり」振り返り

日時：1 月 23 日（金）2 校時

授業者：谷村祥子

1 第 3 学年『小数』

2 本授業の概要

「 $\frac{2}{10}$ と 0.4 はどちらの方が大きいか」という問題にそって、小数と分数の大きさの比べ方について考えた。

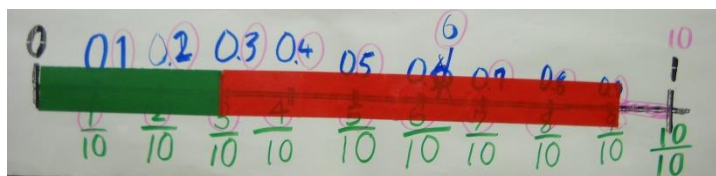
数直線や図などを用いながら、 $\frac{1}{10}$ と 0.1 はどちらも「1 を 10 等分したうちの一つ分」であることを使って説明できるようにさせる。



3 実践の振り返り

(1) 全員で共通の“図”をもつ

本時では、前時までに学習したことを思い出して、自由に説明をするよう指示した。数直線を用いる児童、1 リットルますを用いる児童など、様々な方法で各自説明を試みていた。本時ではその中で 4 つの方法（1 リットルますに表す、分数に合わせる、小数に合わせる、数直線に表す）を取り上げた。これについては、授業後に、どれか全員共通となる“図”を用いて、その考え方について全員で理解し突きつめるのがよいのでは、という意見があがった。次時（小数のたし算）において、第 1 時から用いてきていた数直線を全員共通の“図”とし、ある児童の発表をもとに全員で共通の数直線をかき、確認する時間をとった。それにより、「 $0.3 + 0.6$ は、 0.1 が 3 こと 0.1 が 6 こ合わさった数だから、 0.9 」であるという、全員でおさえるべきことを、数直線を介して全員で確認することができた。このような時間を重ねることで、数直線を自分の“武器”とし、次回に生かしていけるとよい。



(2) 発表内容の精選

(1)の時間をしっかりと確保するためにも、発表する児童を精選することが必要である。児童にどんな風に考えられるようになってほしいかを明確にした上で、そのために発表させるべき考え方はどれかを厳選する。そして、その考え方の素晴らしさを、教師がたくさん褒めて価値づけしてやり、発表を聞いている児童にもその考えのよさに気付かせていく。

4 指導講評 講師：笠井 健二 先生

- ・分からない子への支援。図を大事にし、図から言葉への説明につなげていく。その図を、自分の“武器”とさせていく。
- ・「あの子は、何であのように考えたのだろう？」クラスの児童がどのような気持ちで聞いているのかを考え、発表者のよさに気付けるような言葉がけを教師がたくさんしていく。
- ・図は、素朴なものを取り上げる。全員が理解できるものを示す。